

国・行政のあり方に関する 懇談会の検討状況について

資料 5



スクリーンも使って車座で議論

女性や若手が積極的に議論に参加

- 平成 25 年 10 月 29 日 第 1 回 (この国の現状と今後の課題)
- 11 月 25 日 第 2 回 (国民の意識の変化と民主主義の深化)
- 12 月 10 日 第 3 回 (ダウンサイジングにおける社会環境の変化 - 教育と農業をケーススタディとして)
- 平成 26 年 1 月 30 日 第 4 回 (リスクとどう向き合うか)
- 2 月 27 日 第 5 回 (IT を活用した行政の革新)
- 3 月 11 日 第 6 回 (行政の現場)



iPad を使用して各自意見を書き込み



学生がボランティアで会議の運営をサポート

新しい議事メモのかたち（グラフィックレコーディングの活用） ～会議中、リアルタイムで議論が視覚化され、分かり易く記録される。



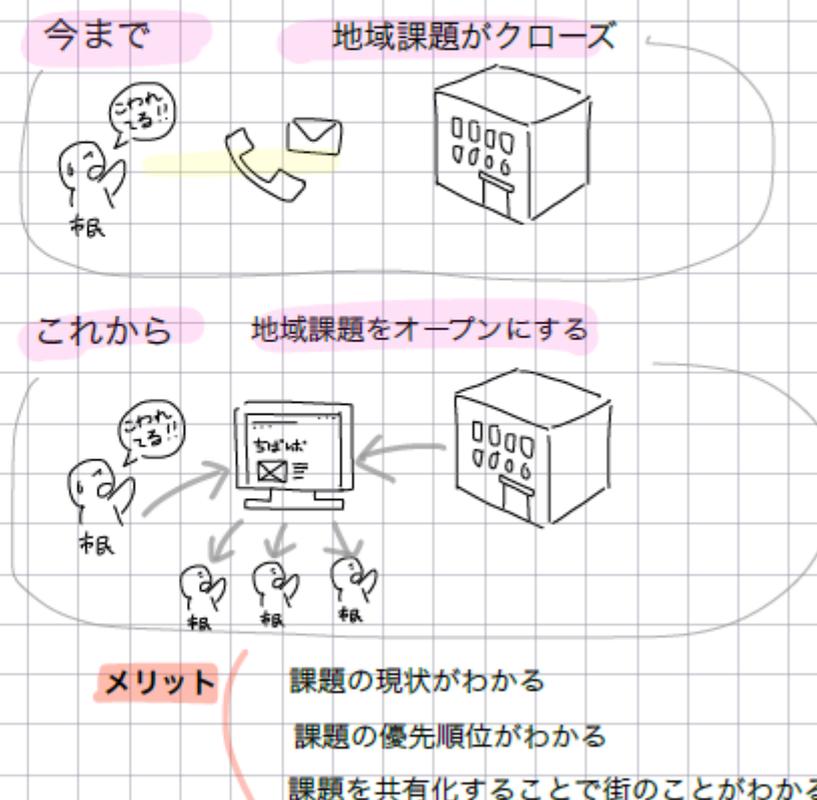
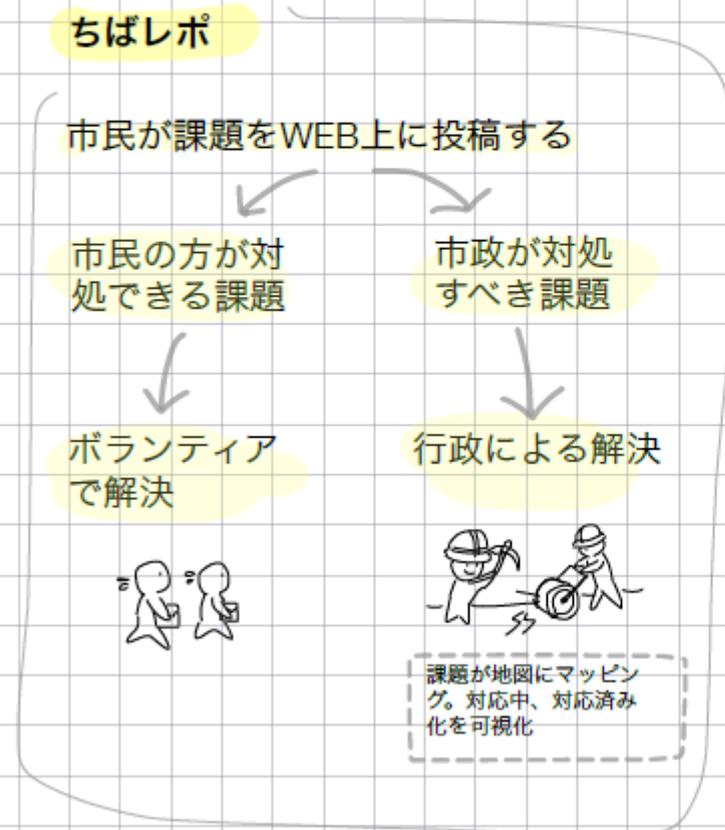
三木さん
千葉市総務局

ITを活用した行政の革新とは何か？

市民参加によるまちづくり「ちばレポ」

課題 人口減と少子高齢化 財政難と公共サービス

市民の持っているパワーを活かしたい



来年度、約96万人の全市民に向けてサービスイン予定



官と民の違いは？

市民はGoogleを喜んで使う
なのに なぜ国の試みは進まないの？



住基カードの時は難しかったが、時代は変わってマイナンバーは認められるようになった

官だけでなく民間の力を
使いながら進めるべきでは

全国に均一のサービスを届ける ユニバーサルモデルは諦める必要がある？



市長がITリテラシーが高い

例：千葉市のマークが初音ミクに似ているかどうか市長がTwitterで議論



日本
完成度を高めてから提供するという発想
間違っちゃいけない文化

Google
永遠のβ版という発想
プロトタイプを作
ってトライ&エラーの文化



失敗を称える文化を育む必要性もあるのでは
成功事例は共有されても
失敗事例が共有するされにくい



情報教育が必要

データをどうアップする？共有すべき書き込みは何



行政ではトライ&エラーがしにくい
議会を乗り越えることが難しい
ちばレポは議会を通すことが難しかった



Ex 千葉市でオープンデータに関するセミナー開催

wsを通して市の職員でデータの扱い方を共有



海外
Ex

Code for America

職員を教育するのではなく、
エンジニアを派遣する取組



問題解決力が
高い自治体
オープン化に積極的

問題解決力が
低い自治体
オープン化に消極的



Ex

Code for Japan

オープンガバメントを推進する取組

行政に派遣受け入れをお願いしたいが
行政は変える意思がないのでは？

東京よりも、危機感のある地域の方が積極的

内閣レベルでITを推進することで
行政の意識が変わるのでは？

ただオープン化するだけでいいのか？

できる自治体ほどオープン化を進める

シグナリング

自治体制の競争化が進むのでは？



失敗を称える→オープンにする→競争がすすむ
「大失敗賞」があってもいい



行政サービス間競争を可視化するべき

「千葉市はすごい！」→他の自治体に刺激

例えば、ワンストップの申告システムを
こうちくし、旅先でも通報できるような
システムを構築する



官民の役割分担がIT化で変わる

課題：参加率が低い市民に参加をどう促すか？

課題：プライバシーの侵害は？
→基準の必要性



事例：留学先のノルウェーは民主主義が盛んだった
→文句を言わないと動かない国

お市さん

何も言わなくても動いてくれる日本
→文句を言わなくても上手く対応する
→市民参加を阻害していないか？

本当にITでやる必要があるのか疑問なことも...



日本はIT先進国から2周半遅れている！

IT技術の素晴らしい可能性
→若者の人材育成が重要

ビッグデータの可能性：311の経験から



twitterが震災でどのように生かされたか

津波発生!!



15時間後救助

テキストマイニングで救済希望メッセージを自動的に抽出できないか？

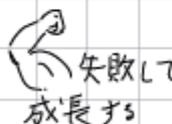


堀端さん

仕事のシステムを整備してからIT化しよう

人材育成：「実業務は結局人間がやる」という限界

行政の業務はIT化だけではない
→しかし、本来の行政の役割こそが重要



全体像を理解してからIT化を進めるために、トライ・アンド・エラーを許容しよう。

海外事例 エストニアのe-societyという考え方
→社会全体で協力、ローコストで課題解決

事例：IT活用としてのマイナンバー
→医療関係で効果を発揮
→老後の安心のために国家の監視が必要

事例：新型インフルエンザ
→感染症のコントロール：GPSで行動記録を追跡、感染可能性エリアの把握

ビデオレター武雄市長 樋渡さん

職員が全員ITを使いこなすことが大事
→使いながら理解する

新しい議事概要のかたち（インフォグラフィックスの活用） ～議論の概要を視覚化して、分かりやすく伝えるための取組

国・行政のあり方に関する懇談会 Vol.4

リスクとどう向き合うか **infographics**

リスクを通して国・行政のあり方を考えると？

リスクは白か黒かの二元論ではない

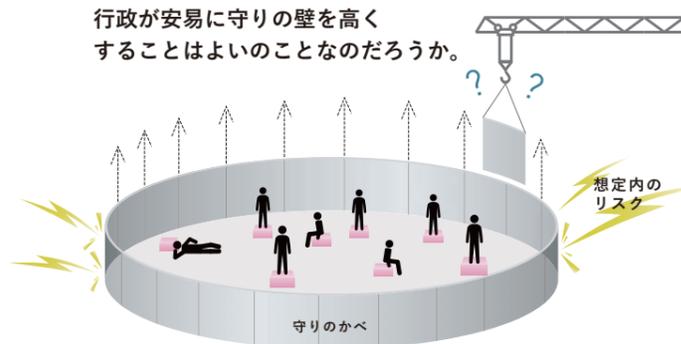
安全だと思っている中にリスクは潜んでいる。
リスクは白か黒かで言えるほど単純ではない。



リスクは白か黒ではない。小さな段差で転ぶことも、大きな段差で転ばないこともある。リスクは時と人によって異なり、白黒つけられない。一人一人が白に近いグレーを判断する姿勢が重要。

「完璧な守り」の限界

行政が安易に守りの壁を高くすることはよいことなのだろうか。



行政は個人のリスクを守るための「かべ」を作るが、壁を高めていくほど、個人のリスク対応力が下がる。また、その壁は高くなるほどコストが高くなっていく。

「完璧な守り」から「レジリエンスへ」

想定外の困難な状況においても柔軟に適応し対処する能力、「レジリエンス」が必要。

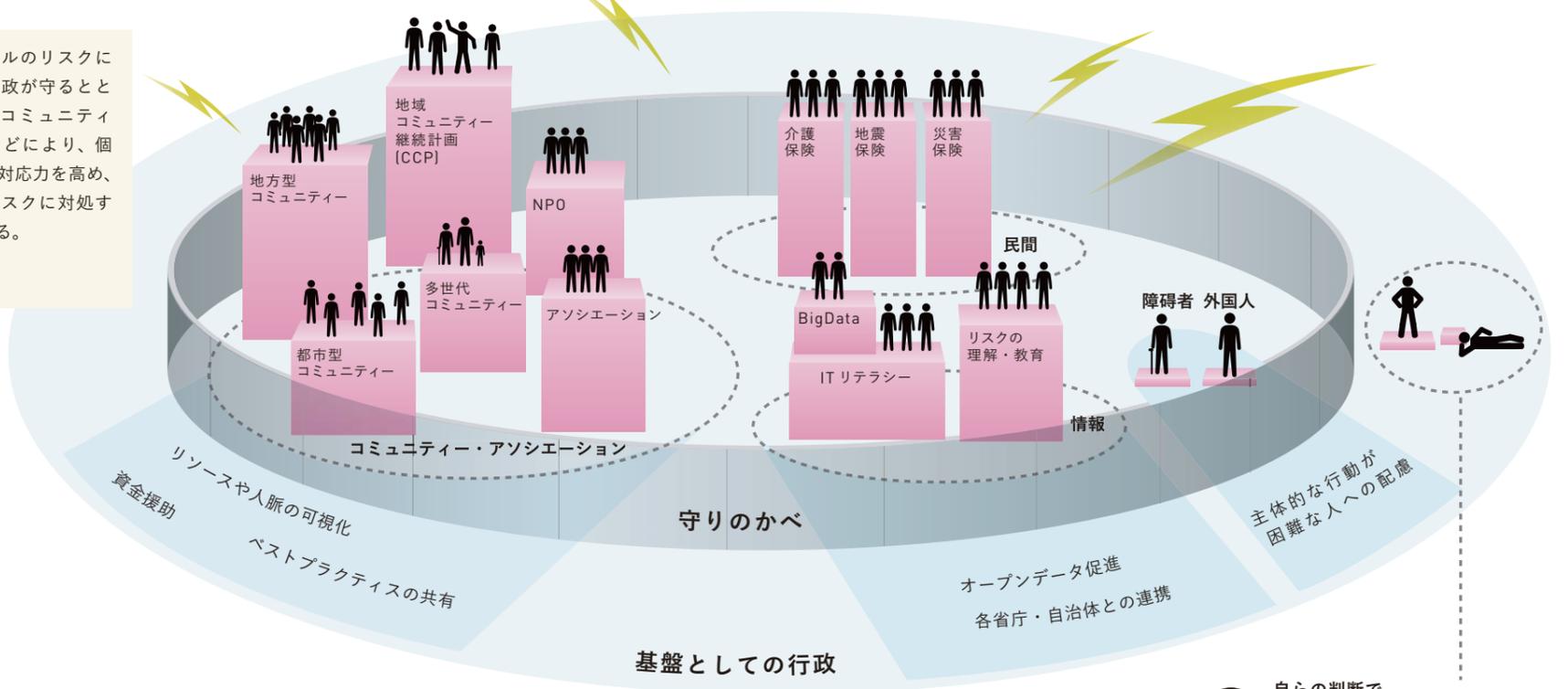


完璧には予測できない前提で危機にどう対処するかという考え方に立ち、一人一人がリスクを取り、対応力を高めることが大事。

レジリエンスを高めるために

コミュニティやリスク教育、保険など
様々な手段や機会を活用し個人のリスク対応力を高める。

マクロレベルのリスクに関しては行政が守るとともに、地域コミュニティや教育などにより、個人のリスク対応力を高め、想定外のリスクに対処する必要がある。



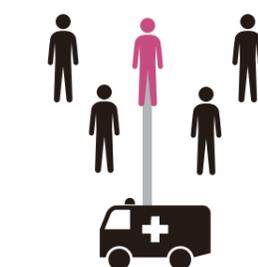
行政に残された課題

行政は被害の連鎖を断ち切るために不完全情報の中で人々の権利に立ち入ることができるのか。



例えば江戸時代の火消し。この家を壊さないと火事の拡大を防げないという判断を風向きから考えて、不完全な情報の中でおこなわなければいけない。

行政は限られたリソースを活かすために優先順位を判断しなければいけないが、事前の社会的合意を形成できるのか。



例えばトリアージ。災害医療の現場において、命が助かる人を医師が選別し優先的に措置する。では、行政においてこのような優先順位について、事前の社会的合意をどう形成するのだろうか。

司令塔を作れば迅速な対応はできるがすべての指示をしようとうまく機能しない。現場に任せることのバランスはどうとすべきか。



例えば 3.11。高速道路が早急に開通する等は現場に任せてうまくいった。一方で現場に任せることで全てがうまくいくものでもない。